

岡山県海域で発生したキジハタの病気

平成30年の8月から10月にかけて、県内海域の広い範囲で高級魚として知られるキジハタが、腹部を膨満させて水面に浮いているという情報が多く水産研究所に寄せられました。浮上しているキジハタは、生きていたものの遊泳できずに水面を漂っており、網などで簡単にすくい上げられるような状態でした。研究所に持ち込まれた魚を検査した結果、ウイルス性神経壊死症（Viral nervous necrosis：VNN）という病気に感染していることが分かりました。釣りなどの際に目にされた方もいらっしゃると思いますので、病気の特徴をお知らせします。

VNNは、ベータノダウイルス属という種類ウイルスが原因で幅広い種類の海産魚に発生する病気で、世界各地でアジ、スズキ、ハタ、カレイ科など30種類以上の魚に幅広く感染が確認されています。名前のおお脳や脊髄などの神経細胞に壊死を引き起こします。感染した魚は、旋回したり底に横たわるなど遊泳に異常が観察されることがあり、成魚やハタ類では鰓が膨満し、転覆した状態で水面に浮かぶことから別名「転覆病」とも呼ばれています。なお、感染した魚を人間が食べたとしても、人間に影響はありません。

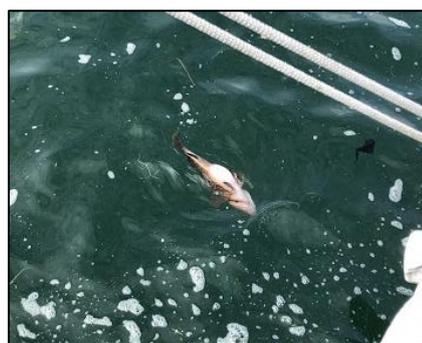
発生する時期は夏季から秋季で、ウイルスの型にもよりますが、15℃から30℃の範囲で活発に増殖することが分かっています。体の小さい稚魚期の魚が死亡することが多いですが、スズキ科やハタ科の魚では成魚でも死亡することがあるので、国内のみならず諸外国でも種苗生産や養殖を行う際に問題となっています。また、平成12年頃から世界各地で外見上は異常の無い様々な種類の魚からウイルスが検出されたことから、海域には症状が現れていない不顕性感染魚が多く存在してお

り、これらの魚が病気発生の原因となっていると考えられています。

病気の診断は、DNA検査や組織観察で行います。病気が親魚から仔魚へ垂直感染するため、種苗を生産する際には検査を行ってウイルスに感染していない親魚を選び、卵、飼育水の消毒、出荷時の検査などで病気の感染を防ぎます。このため、VNNに感染した稚魚が放流されて病気を発生させることはありません。

今年度に病気が発生した原因ははっきりと分かりませんが、昨年7月に多量の雨が降ったことなどの気象条件や海況等の何らかの要因が、通常であれば発症しない不顕性感染魚へのストレスとなり、病気となった可能性も考えられます。気象や海況を人為的にコントロールすることはできませんが、特異な現象が起きた場合には、状況を把握していきたいと思います。

（開発利用室：清水）



浮上したキジハタ

